

沖縄県医師国民健康保険組合からのお知らせ

■医師国保組合とは

沖縄県医師国民健康保険組合は、国民健康保険法に基づき、国民健康保険を行う目的で昭和49年10月に設立された公法人で、沖縄県内で医業関係のお仕事に従事されている方を組合員とした「国民健康保険組合」です。



■加入対象者について

- ・医師 … 沖縄県医師会会員で医業に従事しており、社会保険等に参加していない方。
(※開業医、勤務医等は問いません。詳しくは事務局までご連絡下さい。)
- ・家族 … 医師、従業員組合員と住民票が同一で社会保険等に参加していない方。
- ・従業員 … 医師組合員が開設する医療機関に勤務する従業員の方。

■組合の保険料について(※1人当たり)

	国保分	後期分	介護分 (※40~64歳)	月額保険料	年間保険料 (月額×12)
医師	26,500	3,100	3,600	33,200	398,400
家族	7,500	3,100	3,600	14,200	170,400
従業員	8,500	3,100	3,600	15,200	182,400

※介護分(介護保険料)は40歳から発生し、64歳までは組合で徴収します。
65歳からは市町村へ納付することになります。

■組合の保健事業について

組合では、被保険者の健康保持・増進のため、次の保健事業を実施しています。

- 半日人間ドック助成事業 … 半日人間ドックの受診費用を一部助成します。
- インフルエンザ予防接種助成事業 … 予防接種の接種費用を一部助成します。
- 宿泊助成事業 … 県内ホテルへ宿泊された場合、宿泊費用の一部を助成します。
- 育児支援事業 … 出産された被保険者の方へ、育児支援本を1年間提供します。

詳細につきましては、事務局までお気軽にお問い合わせください

沖縄県医師国民健康保険組合

住所：南風原町字新川218-9
TEL：098-888-0087
FAX：098-888-0089
事務局：稲福、與那嶺まで





世界最古の
ホスピスを訪ねて

中頭病院
林 正樹

5月5日アイルランド共和国ダブリンにある世界最古のホスピスを訪問する機会があった。雲が垂れ込めて雨がが多いイメージの国であったが、当日は晴天に恵まれ、敷地内をゆっくり見て回ることができた。

世界最古のホスピスとされる場所は、アイルランドのダブリンにある Our Lady's Hospice である (写真①②)。慈善修道女会 (the Congregation of the Religious Sisters of Charity) は Mary Aikenhead により、ダブリンに 1815 年、アイルランドの貧困に対するために作られた。この頃、ダブリンの結核罹患率はロンドンの 2 倍、チフスやはしか



①入口の門。



②入り口付近から施設を見たところ

は 3 倍であり、カルカッタに次ぐ世界 2 位の死亡率であったとの事である (Our Lady's Hospice のホームページより)。Mary Aikenhead は貧しい人、罪人、病人や死にゆく人などのためアイルランド中に 13 のホームを作った。Aikenhead の没後、遺志を継いだ修道女らにより 1879 年に Our Lady's Hospice が開設された。元々は貧しく引き取り手もなく、回復の見込みのない死にゆく人を引き受けるための場所であった。

緩和ケアにかかわっている私は、実際にその施設を見てみたくなり、5月の連休を利用してダブリンを訪ねてみることにした。メールで問い合わせたところ、快く見学することを許可して下さいました。

受付にて受け取ったメールを提示ししばらく待つと、Assistant Director of Nursing の NH さんという女性が案内にきてくれた。まずはこのホスピスの歴史的な事を説明していただき、施設の案内をしていただいた。現在は 218 ベッドの施設で、がんなどの緩和ケア (Palliative care) の他、Community Reablement Unit, CRU という高齢者のリハビリ主体の施設、Care of Older People in Anna Gaynor House という慢性疾患の高齢者主体の施設、Rheumatic and Musculoskeletal Disease Unit, RMDU というリウマチ性疾患の QOL を改善するための施設などがあるとのことであった。緩和ケアの施設のみ案内していただいた。

施設は現在改築中であり、数室 4 人部屋が残っているが、改装後はすべて個室になると言うことであった。平屋の広い敷地に、十分なスペースを持って部屋が作られており、現在使われていない個室を見せていただいたが、いろいろなものが使いやすいようにうまく配置されていた (写真③)。部屋からは、中庭にベッドのまま出することも可能に作られており、よく配慮されていると思った。患者のための入浴施設もを見せていただいた。座ってシャワーを浴びられるような台や、寝たまま入ることのできるジャグジーなどもあり、患者のために最大限の配慮がされていた。また、施設内に本格的な美容室があったのにも驚いた。予約制で、誰が使っても



③病室。中庭に面しており、快適な部屋だった。

よく、時には病室に出向いてくれるとのことであつた。

デイサービスを行う部屋もあり、子供も利用することがあるのかおもちゃなども置かれていた。付き添いの家族が休める部屋も使いやすいように作られていた（写真④）。祈りのための部屋も、きちんと作られており、立派なステンドグラスが張られていた。他の教会にあつたものを、取り壊しのため外して寄付してもらつたということであつた。修道女の方々も患者の信仰に関係なく援助をしているとのことであつた。



④家族の付き添いのための部屋。
ボランティアの方がコーディネートしたとのこと

介護犬がいるとのことで、彼の活躍を示すポスターが貼られていた。（写真⑤）

地域の病院との連携がどうなっているのか尋ねてみた。Our Lady's Hospice はダブリンの南をカバーしており、医師が他の病院でも勤務していて、緊密な連携を取っているということであつた。



⑤介助犬 Rian のコーナー

ホスピスには多くのボランティアがおり、お茶を運んだり本を届けたり読んだりなど様々な活動をしているということであつた。家族が滞在するための部屋のコーディネートもボランティアの人たちがやつたという。案内されるなかで、この人はナース、この人たちはボランティアであると説明を受けないと全くわからないくらい動きが周囲と溶け込んでいるのには感心した。

ホスピスの敷地内に、2008年に完成したという Education and Research Centre があり、教育的なことが行われている。（写真⑥）



⑥敷地内にある教育・研究施設

ホスピスに入所する人が負担する費用に関して質問したところ、非常に驚いた答えが返ってきた。「もし生命保険が使える人がいれば、保険で払ってもらふ事はありますが、基本的には患者に費用を請求することはありません。そして、費用を払えるかどうかで差別を受けることもありません。」とのことであつた。

1時間近く、院内を案内していただき、詳細に説明をしていただいた。その後自由に敷地を見学してよいとお言葉に甘えてしばらく見て回ることができた。帰りには幾ばくかの寄付を入り口近くのポストに入れてきた。

アイルランドは、数日滞在したが、人々はフレンドリーで、流しのタクシーを日本のように止めて乗ることができ、近距離でもいやがらず乗せてくれ、いろいろと親切に説明をしてくれたりして、好印象であった。ギネスくらいしか知らずにいたが、結構楽しく過ごすことができた。食事はおいしかったが、気候のせいか野菜が少なく、肉好きの私でも二日目には野菜サラダがほしくなった程であった。



マッキントッシュとの出会い

社会医療法人かりゆし会
ハートライフ病院 外科
西原 実

医師になって3年目で長崎市民病院に勤務していた時、同僚の内科医（大学の同期生）が、『パソコンを買おうと思うのだが、迷っている』と話してきた。

私は最初意味がわからなかった。というのも当時 NEC の PC9801 が圧倒的シェアを誇っており、医者もほとんどはこれを使用していた。私も、2年目で赴任した県西部浜松医療センターで上司から勧められ、購入していた。一太郎、ロータス 1.2.3 等が懐かしい。日本外科学会の認定医を取るために2年目の症例はロータス 1.2.3 へ登録していたものだ。

しかし彼は、マッキントッシュ (Apple 社) を購入しようとしていた。私にとっては聞いたこともない、得体の知れないものであった。私は反対したが、彼は数日のうちに購入してしまった。私は PC9801 を購入するのに約 50 万円

ほどかかったが、彼は約 80 万円払ったようであった。

恐ろしく高価に思えたのだが…。その考えはあっという間に吹き飛んでしまった。彼の操作を後ろから見ていて鳥肌がたった。モニター画面がある種の空間を作り出し、操作する者はその空間を際限なく自由に飛び回れる、といった感覚であった。もう PC9801 を触る気すら失われ、すっかり魅せられてしまった。彼の購入したマシンは SE/30 であり、モニター画面はたった 9 インチしかなく、しかも画面は白黒であったのだが、そんなことはもうどうでもよかった。

もともと PC9801 を操作していて、コンピューターとは何と自由度の低い、使いづらいものなのだろう、と怒りすら覚えていたので、ますますセンセーショナルに感じたのだろうと思う。

そのうち彼は、もう一台購入すると言いだした。それを聞いて我慢できなくなった。私も便乗することにしたのだ。彼は 13 インチのカラーモニターとセットにした IIcx を考えていた。もちろんプリンター付きである。IIcx のメモリを 5 メガに上げて、ハードディスクを 100MB に換装したものであった。当時そのスペックは計り知れないほどの空間を演出してくれるように感じたものだ。彼の購入に合わせて、私も同じスペックと一緒に購入した。約 100 万円の買い物だった。当時の貯金を全て叩いて購入した (未だ独身だった)。

しかし、この買い物は良いお金の使い方だったと思っている。何しろ、パソコンに向かい合うのが楽しくなった。毎日毎日何かしらパソコンをいじっていた。特にファイルメーカー II との出会いは筆舌に尽くしがたいものであった。これほど自由度が高く、どんな形にでも変形できるソフトは見たことがなかった。ノートのページをめくるような仕様のデータベースソフトであった (カード型というらしい)。その後の診療における経験症例は全てファイルメー

カー II に全て登録し、日本外科学会の認定医取得には大いに役立った。

4年目で光晴会病院に勤務すると Apple は PowerBook シリーズを発売し始めた。病院と自宅と両方でマッキントッシュをいじりたかった私にとっては正直大変魅力的であった。初めて発売されたのは、PowerBook100、140、180 の 3 機種である。ものすごく高価であった覚えがあり、PowerBook180 に至っては 70 万円を超えていたのではなかったかと思う（ややあやふやではあるが…）。しかし、初めて発売されたシリーズであり、マシン本体の強度や液晶画面の視認性、スペック等についても、まだ信用できなかった。そういうことで、上司に購入を勧められはしたが、踏み切れなかった。

悶々とした日々が続いたが、ある時生協のチラシが目に入った。私は息をのみ、目を疑った。何とそこには、製造終了となるため在庫を処分する形で SE/30 が売り出されていたのだ。以前友人が購入した価格の半額以下であった。もう我慢できなかった。もともとコンパクトマックとして人気のある機種である。以前の鳥肌の立つ感覚が忘れられなくて、私も欲しくてたまらなかったのである。早速生協に電話し、メモリを 8 メガにあげ、ハードディスクを 40MB から 80MB に換装してもらい、購入した（約 40 万円超を払ったが、未だ独身であった）。感動である。

病院の机は小さく、IIcx は大きかったので、IIcx は自宅で、SE/30 は病院で使うことにした。使ってみると、白黒の画面は目に優しいのか、疲れが少ない感じを受けた。また、wizwig ? と呼ばれていたか、画面が、スクロールしながら A4 の用紙に直接書き込むような設定であり、画面の文字がそのままの大きさに印刷されるため、空間的な把握が容易であった（解像度が 72dot/inch ? に固定されていた）。この当時は未だ動画を扱うにはパソコンのスペックが不十分であり、かろうじて静止画を扱い始めた頃であった。文章を扱うことがほとんどであ

り、その意味でも SE/30 の白黒モニタは十分であった。

マッキントッシュに関する書籍も読みまくった。当時月刊誌として、MAC POWER、MAC LIFE が有名であり、欠かさず購入した。当時は未だインターネットは登場しておらず、パソコン通信として Nifty-serve が存在する程度であり、書籍からの情報は貴重であった。程なく日経 MAC、Mac Fan が登場し、それらもほぼ毎月購入していた。残念ながら現在まで刊行されているのは Mac Fan だけかと思う。

当初、原稿を書き始めるにあたって、2,500 字もあれば、現在までのマッキントッシュ遍歴を全て書けるものと思っていたが、とんでもなかった。それこそ出合いの部分だけであり、25 年以上も前の話だけで終わってしまった。面白くない話だったかもしれないと思い、恐縮している。しかし、もしまた機会があれば、その後についても書いてみたいと思う。SE/30 についてのみ触れておくが、購入後約 20 年は現役で動いていたが、その後ご臨終となった。しかし、愛着ゆえに捨てることができず、今も私の部屋を飾ってくれている（写真）。

